



平成25年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場会社名 株式会社 梅の花

上場取引所 東

コード番号 7604 URL <http://www.umenohana.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梅野 重俊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼経営計画室長 (氏名) 上村 正幸

TEL 0942-38-3440

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第1四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第1四半期	7,911	△2.2	228	36.1	132	△7.2	33	△71.3
24年9月期第1四半期	8,087	2.3	167	△42.3	142	△19.8	118	—

(注) 包括利益 25年9月期第1四半期 38百万円 (△66.8%) 24年9月期第1四半期 116百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第1四半期	477.88	450.48
24年9月期第1四半期	1,665.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年9月期第1四半期	21,033	6,629	31.5	90,151.76
24年9月期	18,157	5,989	33.0	85,811.00

(参考) 自己資本 25年9月期第1四半期 6,629百万円 24年9月期 5,989百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0.00	—	500.00	500.00
25年9月期	—	—	—	—	—
25年9月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月期(予想)期末の配当金については、平成25年4月1日を効力発生日として普通株式1株を100株に分割する株式分割を考慮した額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当額は、500円00銭(第2四半期末:0円00銭 期末:500円00銭)となります。

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,519	△1.8	374	△12.0	333	△28.1	180	△51.6	25.79
通期	29,556	△1.6	550	7.7	470	△15.7	250	△2.5	35.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、平成25年4月1日を効力発生日として普通株式1株を100株に分割する株式分割を考慮した額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の1株当たり当期純利益は3,582円02銭(第2四半期は2,579円05銭)となります。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期1Q	74,892 株	24年9月期	71,147 株
② 期末自己株式数	25年9月期1Q	1,354 株	24年9月期	1,354 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期1Q	70,973 株	24年9月期1Q	71,071 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成25年2月12日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 株式分割について

当社は、平成24年11月14日開催の取締役会において、株式の分割及び単元株制度の採用について決議し、平成25年4月1日を効力発生日として普通株式1株を100株へ分割し、単元株式数を100株とすることとしております。これに伴う平成25年9月期配当予想及び連結業績予想については、該当項目をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政権交代を機に、円高の是正や今後の経済政策が期待されているものの、欧州財政危機や新興国経済の減速等の影響により、不透明な状況が続いているといわれている中で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは前期に引き続き「思い立ったら即実行 実行力が会社を変える」を経営方針として、お客様に感極まるサービスを提供できるように取り組んでまいりました。

販売強化策といたしましては、これまで通り、店舗責任者によるお客様へのご挨拶、ご来店頂いたお客様への手書きによるお礼状の送付及び近隣の企業への訪問営業活動を行っております。また、「餃子」に続く商品といたしまして「豚しゅうまい」、「海老しゅうまい」等を開発し、売上の増加を図っております。

また、当社は11月にエイチ・ツー・オー リテイリング株式会社との資本・業務提携契約を締結し、同社を割当先とした第三者割当による新株式の発行及び無担保転換社債型新株予約権付社債の発行をいたしました。資本・業務提携により、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社及びそのグループ会社の強みである財務体質や販売力、また、当社の強みである商品開発力及び商品の供給体制等の強みを融合することにより、両社の企業価値を向上できるものと考えております。

店舗の出店及び閉店につきましては、外食事業1店舗出店、テイクアウト事業3店舗出店及び1店舗閉店により、当第1四半期末の店舗数は、259店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高79億11百万円（前年同期比97.8%）、営業利益2億28百万円（前年同期比136.1%）、経常利益1億32百万円（前年同期比92.8%）、四半期純利益33百万円（前年同期比28.7%）となりました。

なお、セグメント別の状況は次のとおりであります。

(外食事業)

前期に引き続き、テレビコマーシャルを重要な広告媒体としてとらえ、シリーズ化しております。

また、お客様に最上のサービスを提供できるように、定期的にテーマを決めて顧客満足度向上活動（KKS活動）を行っております。

経費の削減につきましては、前期に引き続き人件費コントロールに重点を置き、人員配置や勤務シフトを見直すことで、サービス水準を落とすことなく人件費を削減し、利益率の向上に努めております。

出店及び閉店につきましては、梅の花68店舗、チャイナ梅の花4店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は、10月に「花小梅久留米店（福岡県）」を出店し3店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は78店舗、売上高は50億4百万円（前年同期比97.7%）、セグメント利益4億2百万円（前年同期比123.9%）となりました。

(テイクアウト事業)

古市庵テイクアウト店、梅の花テイクアウト店ともに、おせちの取り扱いを増やしており売上の拡大に努めております。

出店及び閉店につきましては、古市庵テイクアウト店は、10月に「錦糸町テルミナ店（東京都）」を出店し、10月に「静岡松坂屋店（静岡県）」を閉店し136店舗となりました。

梅の花テイクアウト店は、10月に「エキマルシェ大阪店（大阪府）」を出店し、35店舗となりました。

その他店舗は、10月に「うめだ阪急ヴェルコイチ店（大阪府）」を出店し、10店舗となりました。

従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は181店舗、売上高は29億7百万円（前年同期比98.0%）、セグメント利益61百万円（前年同期比72.1%）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ28億76百万円増加し、210億33百万円となりました。これは主に、無担保転換社債型新株予約権付社債及び第三者割当による新株式の発行により、現金及び預金が22億20百万円増加し、季節要因により売掛金が4億43百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ22億35百万円増加し、144億3百万円となりました。これは主に、無担保転換社債型新株予約権付社債の発行により社債が22億59百万円増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ6億40百万円増加し、66億29百万円となりました。これは主に、第三者割当による新株式の発行により資本金が3億18百万円、資本剰余金が3億18百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年11月14日の決算短信で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,684,430	3,904,928
売掛金	1,283,412	1,727,125
商品及び製品	60,976	86,592
原材料及び貯蔵品	164,563	226,378
繰延税金資産	236,201	194,568
その他	442,446	573,116
貸倒引当金	△1,758	△1,658
流動資産合計	3,870,272	6,711,049
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,501,732	6,534,332
機械装置及び運搬具（純額）	125,513	157,123
土地	4,636,426	4,636,426
建設仮勘定	8,523	5,630
その他（純額）	515,335	521,628
有形固定資産合計	11,787,532	11,855,141
無形固定資産		
のれん	578,161	549,253
その他	63,955	60,025
無形固定資産合計	642,117	609,278
投資その他の資産		
投資有価証券	54,457	60,015
長期貸付金	77,568	77,507
繰延税金資産	23,416	22,328
敷金及び保証金	1,651,177	1,650,906
その他	140,430	137,073
貸倒引当金	△89,843	△89,793
投資その他の資産合計	1,857,207	1,858,039
固定資産合計	14,286,858	14,322,459
資産合計	18,157,131	21,033,508

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	584,153	987,837
短期借入金	2,000,000	1,600,000
1年内返済予定の長期借入金	2,423,786	2,373,802
未払金	1,488,794	1,510,265
未払法人税等	39,200	13,911
賞与引当金	235,200	120,900
ポイント引当金	139,145	140,004
その他	616,990	784,384
流動負債合計	7,527,269	7,531,105
固定負債		
社債	—	2,259,675
長期借入金	3,703,634	3,705,471
退職給付引当金	155,712	139,684
資産除去債務	612,635	615,177
その他	168,871	152,814
固定負債合計	4,640,854	6,872,823
負債合計	12,168,124	14,403,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,804,852	4,123,177
資本剰余金	3,181,841	3,500,166
利益剰余金	△749,023	△750,003
自己株式	△238,011	△238,011
株主資本合計	5,999,658	6,635,329
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,925	△1,023
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
その他の包括利益累計額合計	△10,651	△5,749
純資産合計	5,989,007	6,629,579
負債純資産合計	18,157,131	21,033,508

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	8,087,813	7,911,573
売上原価	2,341,652	2,371,471
売上総利益	5,746,160	5,540,102
販売費及び一般管理費	5,578,590	5,312,040
営業利益	167,569	228,061
営業外収益		
受取利息	1,075	984
受取配当金	845	865
受取手数料	1,939	1,874
デリバティブ評価益	10,487	—
雑収入	8,632	5,854
営業外収益合計	22,980	9,578
営業外費用		
支払利息	31,739	24,486
株式交付費	—	34,651
社債発行費	—	32,111
雑損失	16,118	13,911
営業外費用合計	47,858	105,159
経常利益	142,691	132,480
特別損失		
固定資産除売却損	3,589	47,405
投資有価証券評価損	546	—
減損損失	775	1,455
特別損失合計	4,911	48,860
税金等調整前四半期純利益	137,780	83,619
法人税、住民税及び事業税	8,819	6,981
法人税等調整額	10,590	42,721
法人税等合計	19,410	49,702
少数株主損益調整前四半期純利益	118,369	33,916
四半期純利益	118,369	33,916

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	118,369	33,916
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,484	4,902
その他の包括利益合計	△1,484	4,902
四半期包括利益	116,885	38,819
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	116,885	38,819
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,121,527	2,966,285	8,087,813	—	8,087,813
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,522	18,192	20,715	△20,715	—
計	5,124,050	2,984,478	8,108,528	△20,715	8,087,813
セグメント利益	324,800	85,148	409,949	△242,379	167,569

(注) 1 セグメント利益の調整額△242,379千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,004,121	2,907,452	7,911,573	—	7,911,573
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,291	15,038	17,329	△17,329	—
計	5,006,412	2,922,490	7,928,903	△17,329	7,911,573
セグメント利益	402,376	61,399	463,775	△235,713	228,061

(注) 1 セグメント利益の調整額△235,713千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年12月3日付で、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社から第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第1四半期連結会計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ318,325千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が4,123,177千円、資本剰余金が3,500,166千円となっております。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。